

佐世保工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	自然科学概論
科目基礎情報						
科目番号	0103		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	前期:1 後期:1		
教科書/教材	高校で教わりたかった化学 渡辺正・北条博彦著 (日本評論社)					
担当教員	横山 温和					
到達目標						
1. 各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」を身につけることができる。(A1) 2. 各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができるようになる。(A1) 3. 各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができるようになる。(A1) 4. 各種の講義や実験を通して、「自然科学への興味・関心」がより一層高まるようになる。(A1) 5. 講義を通して、初歩的な化学結合論を理解できるようになる。(A1)						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 (到達目標1)		各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」が身につけている。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」が身につけている。	各種の講義や実験を通して、「化学的に探求する態度」がほとんど身につけていない。		
評価項目2 (到達目標2)		各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができる。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」ができる。	各種の講義や実験を通して、「科学的な見方、および考え方」がほとんどできない。		
評価項目3 (到達目標3)		各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができる。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」を意識することができる。	各種の講義や実験を通して、「身近な現象に潜む科学」をほとんど意識することができない。		
評価項目4 (到達目標4)		各種の講義や実験を通して、「自然科学への興味・関心」がより一層高められている。またそれを問題解決のために用いることができる。	各種の講義や実験を通して、「自然科学への興味・関心」がより一層高められている。	各種の講義や実験を通して、「自然科学への興味・関心」がほとんど高められていない。		
評価項目5 (到達目標5)		講義を通して、初歩的な化学結合論を理解している。またそれを問題解決のために用いることができる。	講義を通して、初歩的な化学結合論を理解している。	講義を通して、初歩的な化学結合論をほとんど理解していない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	講義と実験を織り交げた授業を行う。講義では大学初級レベルの化学結合論を取り扱う。また身近にある材料を用いて実験を多く行い、教科書で学習した法則・理論・現象を体験を通して通して理解する。またそれらの実験結果をレポートにまとめる練習を行い、口頭発表により人に伝える訓練を行う。自然科学に重要な意味をもつ論文の輪講を原本(英文)を用いて行い、リアルタイムで発行される世界最先端の論文も適宜取り入れる。					
授業の進め方・方法	予備知識：本科3年までに学習した自然科学(物理、化学、生物)と数学(代数、幾何)の知識があれば十分である。 講義室：化学実験室 授業形式：講義と学生実験を行う。適宜、演習(問題解法と論文輪講)も行う。 学生が用意するもの：A4ノート(100枚綴)、関数電卓、A4サイズファイル、レポート用紙					
注意点	評価方法：定期試験を80%、演習、レポート、発表、出席点を20%で評価し、60点以上を合格とする。 自己学習の指針：レポート作成方法を自主学習する。特に実験の考察方法を学習し、卒業論文作成を見越した訓練を各自で行うこと。演習問題の内容を十分に理解し、講義での議論が活発に行えるように努めること。論文原稿(英文)の検索方法を十分に理解し、自分の興味が湧く論文を自分で選べるようにしておくこと。 オフィスアワー：水曜日 16:00～17:00、金曜日 16:00～17:00 ※到達目標の()内の記号はJABEE学習・教育到達目標					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	高校で教わらない化学・科学への導入、基本的で基礎的な疑問と問題点	高校の化学、生物の教科書に見る疑問点と問題点を理解し、今後の授業の方向性を理解している。		
		2週	原子の構造、原子模型(トムソンモデル、ボーアモデル)	原子模型であるトムソンモデルとボーアモデルを理解している。		
		3週	光の性質(エネルギーと波長・振動数)	光の性質(エネルギーと波長・振動数)を理解している。		
		4週	ボーアの原子モデルとエネルギー準位	ボーアの原子モデルとエネルギー準位を理解し、説明できる。		
		5週	量子論という考え方	量子論という考え方を理解している。		
		6週	波動方程式と不確定性原理	波動方程式と不確定性原理を理解している。		
		7週	軌道と原子の構造、周期表	軌道と原子の構造、周期表を理解している。		
		8週	物質の状態と状態変化、物理化学的理解	物質の状態と状態変化について、物理化学を用いて理解できる。		
	2ndQ	9週	中間テスト			
		10週	物質の三態と状態変化、過冷却実験、過飽和実験	物質の三態と状態変化を理解し、原子・分子の運動をもとにそれらを説明できる。実験を行い、レポートを作成できる。		
		11週	熱と化学反応	カルメ焼きを通して熱と化学反応の関係を理解する。		
		12週	熱と化学反応	線香花火を通して熱と化学反応の関係を理解する。		
		13週	論文検索方法の紹介	ウェブブラウザを利用した論文検索方法を理解し、論文を検索することができる。		

後期		14週	論文輪講	自分で検索した英文論文を読み、その内容を理解できる。
		15週	論文輪講	自分で検索した英文論文を読み、その内容を理解できる。
		16週		
	3rdQ	1週	化学結合(共有結合)	共有結合における原子価結合法、分子軌道法を理解している。
		2週	化学結合(イオン結合、金属結合)	共有結合、イオン結合、金属結合の違いを理解し、説明できる。
		3週	化学結合(等核二原子分子と軌道エネルギー)	等核二原子分子を理解し、軌道エネルギーを用いて説明することができる。
		4週	気体の性質(ボイルの法則、シャルルの法則)	気体の性質(ボイルの法則、シャルルの法則)を理解し、実験を通してその内容を説明できる。
		5週	気体の性質(液体窒素・液体酸素と磁性)	気体の性質(液体窒素・液体酸素と磁性)を理解し、実験を通してその内容を説明できる。
		6週	論文輪講	英文論文を読み、その内容を理解できる。(内容が適切であれば、その年のノーベル化学賞の原著論文を取り扱う)
		7週	論文輪講	英文論文を読み、その内容を理解できる。(内容が適切であれば、その年のノーベル化学賞の原著論文を取り扱う)
		8週	中間テスト	
	4thQ	9週	酸と塩基	酸と塩基の本質を理解し、いろいろな物質のpHを測定できる。
		10週	中和反応	カメレオン焼きそばにおける中和反応を理解し、説明できる。
		11週	酸化還元反応、電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)	酸化還元反応を理解し、説明することができる。電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)の構造と仕組みを理解できる。
		12週	電池(ボルタ電池、ダニエル電池、鉛蓄電池)	電池を作成することができ、起電力について理解している。
		13週	DNAの構造と役割	DNAの構造を理解し、生物におけるDNAのもつ意味を理解する。
		14週	タンパク質の構造と活性中心	タンパク質の構造を理解し、活性中心における反応機構を理解する。
		15週	タンパク質の構造と活性中心	タンパク質の構造データをPDB(Protein Data Bank)よりダウンロードし、その構造を理解するとともにグラフィックソフトを用いて画像書き出しができる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート	出席	合計
総合評価割合	80	8	8	4	100
基礎的能力	80	8	8	4	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0